

報告書



令和4年10月18日

小牧市議会議長 様

会派名 公明党小牧市議団

代表者氏名 加藤 晶子

研修・調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和4年10月13日(木) ～ 10月14日(金)

2 調査先及び調査項目

(1) 長崎県 長崎市
第84回 全国都市問題会議

3 参加議員

加藤 晶子
星熊 伸作

4 調査内容

別紙のとおり

① 日時

令和4年10月13日（木）9時30分から17時 ～

令和4年10月14日（金）9時30分から12時

② 訪問先

出島メッセ長崎

③ 説明者

(株)ジャパネットホールディングス 高田旭人 代表取締役社長

長崎県長崎市 田上富久 市長

島根県立大学地域政策学部 田中輝美 准教授

山形県山形市 佐藤孝弘 市長

(社)地域力創造デザインセンター 高尾忠志 代表理事

④ 調査項目

個性を活かして「選ばれる」まちづくり

～何度も訪れたい場所になるために～

⑤ 視察先の選定理由や目的

都市問題会議は、これまでテーマを決め、全国の中で先進事例となる取組が紹介されてきましたが、コロナ禍において2年続けて中止となり、ようやく3年ぶりに開催されることになったため、参加させて頂きました。

⑥ 視察項目の概要説明

今回のテーマに掲げられている通り、いかにわが街を「何度も訪れたい場所に」できるか、魅力ある街にしていくかが、これからの発展の鍵となることから、様々な観点からのアプローチがあったと思います。

⑦ 議員からの主な質疑

質1 首都圏のベッドタウンになっている街を、どのようにしたら「選ばれる」まちになっていくのでしょうか？

答1 街は誰かのものと思いがちだけれども、そうではなく、街は自分たちのものとの発想に変えていくことが必要ではないでしょうか。

自分自身が「わが街でなにかできることはないか！」との思いでチャレンジすることが大切だと思います。

⑧ 議員の意見

今回の全国都市問題会議では、人口減少社会を見据え、少子高齢化、労働人口の減少、地域経済の衰退などの現在の日本社会が抱えている大きな課題に目を向け、どのようにしたら人の交流を盛んにし活気あふれ

る街づくりにつながっていくのかを示唆する内容であったと思いました。

⑨ 考察（小牧市への反映）

小牧市においても人口減少社会を迎え、年々少子高齢化が進んでいる中で、「子育てのしやすい街」を前面に出し取り組んでいます。どの街も同じように「子育て」に絡んだキャッチフレーズが目につくようになってきました。

しかしながら、これからの時代を考えますと、高齢者の方々がより一層活躍できる場の創出や若い人たちの街への愛着の醸成、また子どもの頃からの地域との交流など、あらゆる世代をターゲットにすることが大切になってくると思います。

こうした中で、わがまちの価値を見つけ、シビックプライドの醸成につながっていくのではないのでしょうか。

今回長崎の街を歩いていると、すぐに声をかけてくださり、行き方の説明を懇切丁寧にしてくださる方が大勢いました。それだけわがまち長崎に愛着を持ち、来られた方々をもてなす文化が根付いているように感じます。

小牧は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康由縁の地であり、小牧山をはじめ名古屋コーチン発祥の地、メナード美術館等、歴史と文化の薫る街としてアピールできる題材はある地域です。そうしたものを多くの人々にどのように届けていくのか、これから試行錯誤しながら探していきたいと思えます。